

令和7年度 第1回 学校運営協議会 議事録

校名	府立園芸高等学校
校長名	竹田 賢司

開催日時	令和7年6月23日(月)15時30分～17時15分
開催場所	本校校長室
出席者(委員)	中桐委員、小南委員、磯村委員、上田委員、石田委員、山中委員
出席者(学校)	竹田校長、福永教頭、臼井首席、太田首席、湯谷指導教諭(フラワーファクトリ科長)、落田教諭(環境緑化科長)、小林教諭(バイオサイエンス科長)、金沢教諭(普通科長)、中原教諭(書記)、山田教諭(書記)、島本教諭(書記)、那須教諭(書記)
傍聴者	なし
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の取り組み内容(概略) ・令和6年度 学校経営計画および学校評価 ・令和7年度 学校経営計画および学校評価 ・令和7年度 各分掌等の取組計画・目標 ・令和6年度 卒業生 進路状況 ・在校生アンケートについて
備考	

議題等(次第順)

○会長および副会長の選出

○協議

- (1)保護者からの意見提出の状況
- (2)令和7年度 学校経営計画および学校評価
- (3)令和7年度 各分掌等の取組目標
- (4)令和6年度 卒業生進路状況
- (5)その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

■以下、敬称略

○会長および副会長の選出

会長:中桐、副会長:小南

(1)について

- ・6月23日時点で、保護者からの意見なし

(2)について(校長より)

令和6年度にご承認頂きました、令和7年度学校経営計画及び学校評価を私も引き継いでいく。生徒が卒業時に園芸高校に入学して良かったと思える学校にいきたいと考えている。そのような教育活動をしていく。

令和6年度の取組みと自己評価

- ① 確かな学力の育成:基礎学力定着に課題が残る。家庭学習を含め自学できるよう強化していく。
- ② 安全安心で魅力ある学校づくり:授業規律を守ることに課題があった。規範意識の醸成を図り、社会人としての資質向上に努める。
- ③ 夢と志を持つ生徒の育成:顕著な課題等は無いが、教員研修について力をいれていく。
- ④ 校務の効率化と働き方改革の推進:年間の会議回数に課題があり、今年度は会議の回数を工夫して減らす。また、どの教員が担当になんでも業務が遂行できるようデータベース化を図る。

令和7年度の取組み内容

- ① 確かな学力の育成:基礎学力がやはり大切。それを踏まえた専門教科における技術・知識の習得を図る。
- ② 安全安心で魅力ある学校づくり:規範意識の醸成を図る。個別支援が必要な生徒には、教師間の連携を図り、しっかり対応する。本校には魅力が多くあり、発信できていない部分があるので、今年度特に工夫をし、力を注いでいく。
- ③ 夢と志を持つ生徒の育成:生徒には夢を持ってもらう。生徒がやりたいと思ったことを全力でサポートする。
- ④ 校務の効率化と働き方改革の推進:ICT活用等を活かし、業務の標準化を図ることで推進していく。

○できましたら早急に魅力発信、特に北摂中学校にしていただきたい(委員より)

Q:本当に今の教員数で働き方改革はできるのか？(委員より)

►(校長)校長として、教員定数に対して機会があれば思いを伝えていく。

►(教頭)今年度は前年度のご意見を受けまして、数字を使ったポスターを作成できた。

Q:どうやってこの魅力ある学校の良い点を発信していくか？(委員より)

►(校長)教師ではなく生徒が前面に出て、出前授業などで魅力発信するなどをやっていく。

Q:支援コーディネーターはどういう人がなるのか？(委員より)

►(校長)支援教育の経験豊富な教員がなります。本校には経験豊富な教員が多くいる状況です。

(3)について

FF科:今年度は「知識・技術が身についた」と感じる生徒の割合を増やす。中学校への生徒が主になった魅力発信の強化を推進する。専攻教員の進路指導の強化。

KR科:基礎学力につけるため、実習で細かな工夫をする。生徒が前面に出る出前授業での魅力発信や生徒のブログ発信の挑戦。資格取得合格者の増加を図る。

BS科:1年時の基礎学力の強化を図る。地域連携を通じて保護者にアピールは継続していく。進路については継続して教員間で情報共有しながら今年も力をいれていく。

普通科:英語検定、漢字検定、数学検定を今年度も複数回実施していく。

保健部と生活指導部:資料のみの説明

教務部:コロナも明け、昨年にシステム変更などがあったが、今年度ようやく落ち着いて計画的にシステム化、マニュアル化を進めていく年にしていく。

Q:府立高校全体として定員割れはどのような状況か？(委員より)

►(教頭)近年は私学専願の流れがあり、定員割れを起こしている学校が増えてる事実があるが、学校運営している当事者としては、定員割れに対しては諦めず対応していく考え。志願者を増やすのも大切だが、来たいと思える生徒を増やしていく。

Q:出前授業は効果があると考えるか？(委員より)

►(教頭)そう考えている。

○中学の現場では、私学専願は確かにここ数年でかなり増えている。私学と勝負するには中身でやるしかないと思う。園芸高校の生徒は、母校の中学校に自分が作った野菜などを嬉しそうに、自慢げに持ってきてたりする。これは普通高校に行っている生徒にはあまりないこと。やはり園芸高校には中身で勝負できる部分はあるので、魅力発信をして、中学生の意識に刺さるように頑張って欲しい。(委員より)

○教頭:管理職マターではあるが、声が掛かれば、中学3年生全体に対して、学校に行って、学校紹介をしている。す

(4)について(臼井より)

近年は進学が増加傾向であったが、昨年度は就職が増えている。企業が良い条件を提示していることが影響してか、進学を考えている生徒も就職を選択している。今年もその傾向が続くと推測。進学は総合型選抜、農高推薦が順調に進んでいる。今年度も就職の方が多い中、企業からの求人は昨年度を超えるかなりの数が来ている。企業説明会も昨年度より多い企業から参加の話があるので、生徒にはしっかり考えて選択してもらいたい。

進学は指定校推薦では摂南、龍谷、近大が多く、近大は英検準2級あればほぼ合格しており、その点は中学校に対してのアピールポイントと考える。国公立大学に6名合格している点もアピールしていきたい。進路部としては、生徒の夢の実現にしっかりとサポートしていく。

○我々のところには土木建設コンサルタントと繋がりがあるが、農業高校卒業で高卒の人の評価とニーズが高い。やはり技術を持っているというところに価値がある。(委員より)

○推理学をやっているが、中学、高校の教科書の基礎知識があれば大学の推理学はできるのが分かった。それだけ基礎知識は大切。(委員より)

(5)その他

令和10年度の入試改革について説明(校長)

入試の選抜において「特色枠」と「一般枠」が創設される。「特色枠」で選抜する生徒は各学校のアドミッションポリシーに合致する生徒を優先的に入学させるもの。残った生徒で「一般枠」選抜を行う。本校でもどういった生徒を特色枠で選抜するか検討している段階。どのような生徒が本校に望ましいか委員の皆さんからご意見を賜りたい。

意見:面接等でこの学校の魅力を語れる生徒が良い。(委員より)

(教頭)在校生アンケートを少し紹介。「今の学校に満足している」は8割り近い、「中学生にこの学校をおすすめしたい」は8割りを超えている。本校の魅力は在校生には伝わってるので、あとはそれを外部にどう発信していかと考える

次回の会議日程

日時	11月25日
会場	園芸高校 会議室